

# 農就に引かれエゴマ

## 身転から側売油

太田さん小鹿野町の



太田さん手にエゴマと油

無農薬・有機肥料・無添加加工

## 「心身にいい」魅力

【埼玉】小鹿野町の太田誠さん（44）は、同町初の地域おこし協力隊員として移住し、現在は約1畝の畑でエゴマを栽培している。

以前から健康に関心があった太田さん。経営し

ていた都内の飲食店でエゴマ油を販売していたが、「エゴマの栽培からやってみよう」という思いから就農を決意した。知り合いの誘いから地域おこし協力隊に応募し、2017年に着任。任期終了後の20年に遊休農地を借り受け新規就農した。

エゴマ栽培で心がけているのは、無農薬と有機肥料を使うこと。加工品はすべて無添加だ。エゴマ油の魅力について太田さんは「体にいいのはもちろん、エゴマ油に含まれる成分オメガ3は精神的にもいい」と話す。パッケージのデザインは商品の魅力や印象を伝える手段として、知り合いのデザイナーと協力して制作している。

これまでは、地域おこし協力隊として町の祭りの手伝いやエゴマの加工品を出品。SNSでは活動内容を発信し、地域住民との交流を深めてきた。「信頼を得るためには顔を知ってもらうことが大切」と話す太田さん。これまでの努力もあり「がんばっている太田さんの商品を買いたい」と地域からも好評だ。

太田さんは今後、圃場に隣接する精機工場の購入を予定しており、農業のデジタル化をめざす。「少子高齢化が進む中